

●公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成

障害がある人が社会参加の一環として 地球環境のためにできること ～気候変動への取組～

Indonesia インドネシア

氏名 Nandang Noor RH ナンダン（23期）

所属団体 サウダラ・セジワ財団



当財団では、学校教育を修了できなかった人々への学習支援や、インドネシアでの災害緊急対応を展開しています。本プロジェクトでは、災害時や気候変動（環境汚染・異常気象等）の影響を特に強く受ける「障害者」に焦点を当てます。彼らに防災および気候変動のリスクに関する学習機会を提供し、改善に向けた取組への参加をサポートしました。

所属組織の概要

家族相談・学習センター (FCLC)を運営し、心理的・社会的な問題を抱える人に対する相談支援を行っています。例えば、暴力被害者や、家族関係に課題があって相談に来る人などがいます。

また、地域学習センター (CLC)という、すべての住民が情報や学習活動にアクセスできる生涯学習の拠点を運営しています。インドネシアでは、何らかの理由で正規の学校教育を修了できず、不安定な収入に頼って生活している人たちがいます。そのような人たちが学びを再開できるよう、それぞれの学習レベルに応じた学習プログラムを実施しています。

さらに、災害緊急対応や障害者支援プログラムも実施しています。インドネシアでは、近年大規模な災害が多く発生しています。その要因の一つが「気候変動」によるものと考えられています。障害があることで、災害時に生命や安全が脅かされることがないように、日ごろからトレーニングを行っています。

事業の目的

気候変動は、環境の持続可能性、食糧不安、社会経済、健康など、人間の生活のさまざまな側面に影響を及ぼす地球規模の課題です。特に、障害がある人は、気候変動の影響に対して脆弱であると考えています。現在、地球で起きている環境汚染による健康問題、食糧不足、異常気象による移動の制限や経済活動の停滞などは、障害がある人の生活に大きく影響します。しかし、十分な学習の機会とスキルさえあれば、障害がある人は気候変動への取組に積極的な役割を果たす可能性を秘めていると考えます。

そこで、私たちは、障害がある人に気候変動の原因やリスクについて学びの機会をつくり、改善に向けた取組への参加をサポートすることで、地球問題に対応する活動を実施することにしました。大きな地球問題にとっては、小さな解決の一步ではありますが、障害がある人の社会参加という意味ももつ重要なテーマであると考えます。

活動地域

バンドン市（インドネシアの西ジャワ州の州都）

※その周辺地域も含め、特に郊外を優先して実施



対象者

本事業の対象受益者は、以下の2つのグループに分けられます。

1. **直接的受益者**：障害のある男女50名
2. **間接的受益者**：障害者を支援する1団体、および特別支援学校（SLB）

事業の成果

参加者が、気候変動の原因やリスクを理解し、その軽減に向けて地球環境のためにできることを日常的に実践できるようになりました。また、気候変動に影響されない食料確保の取組として、気候変動に強い作物とその栽培方法について学び、未活用地を利用した栽培をスタートしました。

実施内容

1. 気候変動に関する教育とリスク軽減の取組

障害がある人たちが気候変動の影響を理解し、適応するための知識を提供しました。

- ・**気候変動教育の実施**：気候変動の原因、影響、およびリスク軽減策についての教育プログラムを提供。
- ・**意識啓発**：気候変動の脅威から身を守るための具体的な行動指針を共有。



2. 未活用地を活用した食糧安全保障の推進

食糧自給率の向上と経済的自立をめざし、土地活用の技術習得を支援しました。

- ・**土地管理スキルの習得**：食糧安全保障の確保を目的に、生産性の低い土地や未活用地を効果的に管理・運用するための知識と技術を提供。
- ・**農業を通じた地域参加**：農業に必要なスキルを学び、農業的な土地利用を進める。また、障害がある人たちが農業を担い、地域社会に参加するとともに、自らの暮らしを長期的に支えられるようにサポートする。



3. 廃棄物管理を通じた温室効果ガス削減支援

環境負荷を軽減し、循環型社会に貢献するためのスキルアップを行いました。

- ・**廃棄物管理のトレーニング**：有機廃棄物およびその他の廃棄物の適切な管理・処理方法に関する技術指導を実施。
- ・**環境保護への貢献**：適切な廃棄物処理を通じて温室効果ガスの発生を抑制するための知識を共有。



今後の展望

地球環境は、長い年月をかけて変化してきました。その改善も、長い年月をかけて取り組んでいく必要があります。気候変動は、地球単位で取り組むべき課題の一つです。1年間の活動により、目に見えて成果が期待できるものではありません。

私たちは、障害がある人が気候変動により起こるさまざまな問題のなかでも、生き抜き、生活していけるよう、これからも活動を続けていきたいと考えています。いつ起こるかかわからない食料不足の事態においても、障害がある人が生命と生活を維持できるよう、本事業によりスタートした活動を継続します。

また、政府に対して気候変動による影響や対応の必要性を提言していくことも必要だと考えます。今回の活動も踏まえ、社会的なアクションにつなげていきます。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	304,087	
自己資金	37,818	
合 計	341,905	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
ワークショップ開催会場費等	193,703	35名×2回分 (会場、音響等)
参加者交通費	27,672	30名×2回分
講師謝礼	55,344	2名×2回分
実習用資材購入費	64,568	種、土壌、園芸道具一式
銀行手数料予備費	618	管理手数料等
合 計	341,905	

注) インドネシアルピー (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート : 1ルピー≒0.009224円 (2026年5月15日の為替レート)